

義農公園を育てる 5つのヒント

① 松前っ子が育つ

こどもの遊びは、成長のための大切な時間です。義農公園は、こどもの「できた」をおとなが見守り、ときに声をかけながら、ともに学び、挑戦を支える場所でありたいと考えます。自由でありつつ、周囲にも配慮する「責任ある自由」を、みんなで支えていく公園を目指します。

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

散歩を楽しむ人がいる一方で、思いきり体を動かす人がいる時間もあります。使う時間や場所をゆずり合いながら、それぞれのペースで体を動かせる公園でありたいと考えます。自然なすみわけ、思いやりで共存できる使い方を目指します。

③ いつもの居場所を育てる

義農公園は、ただただいられる、ふだんの暮らしの延長の「いつもの居場所」でありたいと考えます。使い方を決めすぎず、人それぞれの関わり方を受けとめる“余白”を残すことで、多様な過ごし方を育てていける公園を目指します。

④ あつまる・にぎわう、松前のシンボル

人が集い、顔を合わせ、声を交わす時間は、楽しさだけでなく、地域のつながりを育てていきます。そうした関係性は、いざという時に助け合える力にもなります。義農公園が、人の流れと記憶が重なり合う松前の「シンボル」として育っていくことを目指します。

⑤ 義農精神と松前らしさをつなぐ・ひろめる

義農精神に込められた「利他」の心や、義農神社、桜や松のある風景。義農公園には、松前ならではの文化と物語があります。それらを学びながら残し、今の時代に合ったかたちで、新しい物語へとつながっていく場所を目指します。